

雨工が



鷺尾雨工のご遺族
鷺尾サダさん（東京都新宿区）

黒埼を誇りに思っていた雨工。遺骨は黒埼のお墓に

雨工は黒鳥、黒埼で生まれたことを誇りに思っていました。貧乏したり大酒を飲んだり生前はご迷惑をかけたりますが、一本筋の通った人でした。一日中座わっていて原稿を書いていました。しかし、書いても子供の医療費に消えてしまいました。本人も体を壊し、亡くなる一、二年前はほとんど何も書けないようでした。いろいろと小説を考えていたようで、もう少し生きていればと思います。黒埼にはお墓しか残っていませんが、そこに遺骨は納めました。

昭和二十一年の講演会で感動しました

昭和二十一年の木場水門の工事完成記念に雨工先生が講演して下さいました。演題は「千本松原血染の顕彰碑」。今から二百年ほど前、薩摩藩は幕府の命で木曾三川の堤防工事を莫大な費用をかけて行った。地元の人々は喜び、千本松原で完工式を行う事になったが、薩摩藩工事奉行の平田は、「藩に負担をかけ、申し訳ない」と、その場で切腹。従者も次々と九十人が切腹した。後に顕彰碑が立ち、今も花が絶えない。という話で、今でも感動を憶えています。

特集／直木賞作家鷺尾雨工

（5ページまで）



木場新田
丸山和五郎さん

此其末
家三郎雨工

1993

11

No. 362

くるさき

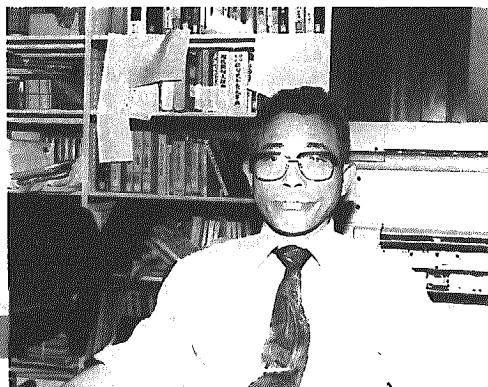
あなたとく
町をつなぐ

広報

いた。

当館では文学者の資料、原稿、遺品などを保存し展示していますが、鷺尾雨工の直木賞受賞作「吉野朝太平記」の原稿もあります。このたび、生誕地の新潟県黒埼町で初めて回顧展を開かれるそうですが、雨工はほとんど文学史に埋りこぼれてしまっていますので、この機会に掘り起こし光を当てることはとても大事なことです。雨工は地味な作家です。しかし、時代小説の分野でもとても重要な作家です。鷺尾雨工展が成功することを期待しています。

東京都近代文学博物館学芸員
仙石鶴義さん



雨工は文学史に埋りこぼれ地味だがとても重要な作家です

不運の作家、鷺尾雨工をもっと黒埼は誇りに思っていた

「鷺尾雨工の生涯」の著者
塩浦林也さん（亀田町）

雨工の歴史に対する見方の確実さは他の追随を許さず、小説の構想力の豊かさには驚かされます。もっと着目されていい作家なのです。雨工の人生は、運がなかったといえます。越後人の純朴さや病氣、戦争が才能を十分に開花させませんでした。しかし、貧しさに耐え、小説を書き続けた雨工をもっと黒埼の人は誇りに思っていたと思います。今度の回顧展やシンポジウムはまたとない機会です。黒埼だけでなく新潟県や日本の近代文学史上、意義があるものだと思います。

